



農の未来ネット NO.27

特定非営利活動（NPO）法人「農の未来ネット」

理事長：倉本器征（東京農工大学名誉教授）

発行責任者：田沼 繁（NPO法人農の未来ネット事務局：電話&FAX 042-313-3620）

編集長：西村正昭

<http://www.nou-mirai.org/index.html>



「農の未来ネット」理事長

倉本 器征（東京農工大学名誉教授）

連日の猛暑、いかがお過ごしでしょうか。

さて、死者、行方不明者約 2 万人の大惨事となった東日本大震災から 5 ヶ月たちりましたが、復旧・復興はほとんど進んでいません。東京電力福島第 1 原子力発電所事故の収束も見通しが立っていません。また、巨大地震、大津波、原発事故、原発事故に伴う「風評被害」が東日本各地域の農林漁業者を直撃しました。なかでも被害が甚大な東北各県の太平洋沿岸部では営農再開の見通しがついていない地域が多いと報道されています。

高濃度セシウムの汚染稲わらによる牛肉問題で肉牛の肥育農家だけでなく繁殖農家

も大きな被害を受け、畜産の存続が問題視されています（連鎖危機）。さらに、米についても出来秋のいわゆる「風評被害」が心配されています。米まで「風評被害」にあえば、復興どころか日本農業そのものの存続が困難になります。したがって、一刻も早い原発事故の収束と放射能物質の影響に対する消費者の不安の解消を早急に進めることが政府と東電に求められています。

農家にとっては、いつ農地や農業水利施設系などの生産基盤が整備され営農を再開できるのかが最大の問題です。今期に営農を再開できるのか、来期になるのか、さらに先になるのか、この見通しを求めています。この見通しがなければ農家も地域も復興計画を立てることができません。政府は復興基本方針の具体化を進める必要があります。東電は農林漁業損害賠償の早期全額払いをしなければなりません。

広辞苑によれば、“復旧とはもと通りにすること”、“復興とは再び盛んにすること”，とあります。「復旧計画」の下で、農家と国・県・市町村・JA・土地改良区などの関係機関が一体となって「復興計画」を立て復興を図ってほしいと願っています。

（以上）

私の納豆 事業報告

「農の未来ネット」事務局

濱田 仁



【写真】HPにある「私の納豆」バナー

「わたしの納豆」は、国の交付金を受けて商品パッケージ(ランチBox)を制作し、農林生協と協働で農林水産省職員を対象に販売を開始しています。

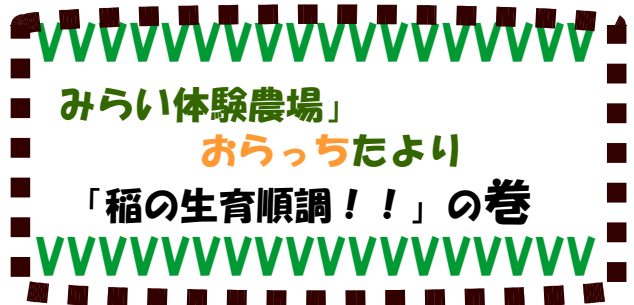
これまでの所、6月13日に開催された「農林生協総代会」にて、注文申込み用チラシ配布とともに試食をしていただき、月2回の受付に注文を受けている状況です。

しかしながら、「納豆は安価で手頃」といった印象が大きいのか、また購入の手間もあってか、いまひとつ「わたしの納豆」の魅力叶わず思うように販売数が伸びません。

「わたしの納豆」事業を始めるにあたり、納豆を好きな方々、一般の消費者のみなさんなどに試食とともに「味」「旨味」「商品魅力」

「価格」「事業への感想」などのアンケートを実施し、販売計画を立ててまいりました。しかし、まだ消費者と私たちとの考えに隔たりが大きいと率直に捉え、今一度、販売PR方法などについて検討を行なうことにしました。まずは、国産大豆の自給率向上と食品の安全・安心の声に応える商品として、「持ち込んだ大豆が納豆になる」という魅力など、ホームページでの掲載やチラシなどでアピールして

いきます。皆様にも一度、ご購入いただいて、ご意見・ご感想などいただければと考えております。



「未来体験農場」

おらっちたより

「稲の生育順調！！」の巻

「未来体験農場」農場長

一之瀬今朝一



○8月20日現在の生育状況

「ミルキークイーン」と「新潟コシヒカリ」は、7月30日には出穂し、花が咲きましたが、「彩のかがやき」は8月16日にほんの一部が出穂を始めたところで、現在でも花が一部見られる程度です。「彩のかがやき」がいかに晩生の品種であることが分かりました。なお、「古代米」は穂が垂れる株が見られる状況です。病害虫の発生もなく、順調な生育となっています。

○草丈の調整と水切り

地主の細田さんは、朝の5時前から田の水の管理を行っていただいております。稲はスクスク育ちました。南側の田は桜の木の陰を落とすことから、徒長しすぎて倒伏し、穂発芽が心配されることから、早めに水を切り(田んぼ水を入れな
い)、わざとヒビを入れて草丈の徒長を押さえ、倒伏に備えています。(他の田も開花後に行います。)ヒビの入った田は、水が必要な時は通常の配水口だけでなく、ホースで水の回らないところに入れて管理されています。

○畦の草取りは手で

7月中旬頃から畦の草取りについて、細田さんから除草剤を手に入れている話をお聞きし、除草を早くやらないと除草剤で枯らすことになることは分かっていたのですが、8月上旬まで、我が家の周りの木の枝落としや雨と暑さが続き、足が遠のきました。8月7日に南瓜と冬瓜の収穫し、8月9日以降、畑の雑草が草丈1mにも伸びたのを退治(奥様(オッカナイ、鬼瓦)同行、その後、畦の草取りにもお付き合いされ、今は観音さま)。8月13日にいよいよ畦の草取りに行くと、一緒に水田をやっている中沢氏が草刈り機で大きい草を退治していました。これで見たい目はパッチリになりました。8月20日で4回通い、2/3まで進み、除草剤は使わないで済みそうです。

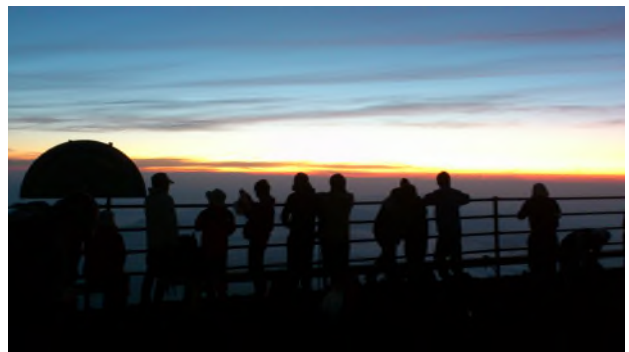
○収穫(稲刈り)時期・・収穫作業の参加依頼

収穫は、9月20日頃から始まる予定。(細田さんは、お彼岸の間は休む予定。)その前に、乾燥機の掃除、コンバインの調子を見ておくことが必要になります。収穫作業の参加依頼は、HPで振るっての参加をお願いします。

*「おらっち」は一之瀬農場長の愛称です。

あぐ・ぼら農場から 夏のお便り

あぐ・ぼら事業において、アグリ・ボラバイター(協働援農者)受け入れ先生産者として、登録して頂いている吉田道行さん(埼玉県本庄市ミニトマト生産者・農事組合法人埼玉産直センター所属)から農場だよりが届きましたので、掲載します。みなさんのアグリ・ボラバイター(協働援農)登録をお待ちしております。



【写真】今作から埼玉産直センターミニトマト部会の部会長になりました。部会の発展を願って富士山に上り祈願して来ました。写真は八合目のご来光のちょっと前の瞬間です。



【写真】
土壌改良のために緑肥を栽培しました。栽培期間が短いのがネックです。



【写真】7月10日頃に定植になったミニトマトは8月下旬頃から出荷が始まります。写真は種苗会社から講師を読んで栽培について現地検討を行っている様子です。今のところ順調です。



武蔵大学インターンシップ を受入



ことは、武蔵大学キャリアセンターの要請を受けて、農の未来ネットが窓口となり埼玉産直センターと共同で学生の実習生（インターンシップ）を受け入れています。期間は、8月20日から29日までの10日間です。

実習に参加したのは、武蔵大学社会学部3年生の丸野祐介君。彼は、インターンシップ研修先への志望動機について「私は農業に関心を持っており、将来的に農業に関わる仕事がしたいと考えています」と言っています。短い期間ですが、農業の実践でおおいに学んで欲しいと思います。

研修は、農業生産法人である埼玉産直センター内では生産部業務や総務部業務に携わるほか、生協組合員等に配送するグリーン・ボックスの野菜詰め業務などを行います。また、露地野菜農家では、ネギ収穫や調整作業などを、施設野菜農家で

はハウスのトマト管理作業などを行います。

丸野君の成果を期待したいと思います。



編集後記

東日本大震災が発生してから8月11日で5カ月が過ぎました。死者・行方不明者が計2万人以上になり、約8万7000人が避難生活をしています。しかも東電福島原発事故による放射能汚染の被害が福島県から岩手県、宮城県にも広がっています。被災者や被災地に甚大な苦しみを与えています。被災者の様子が連日、報道されており、胸が締め付けられる思いです。収穫を迎える主食のお米が放射能に汚染されていないかどうかを心配し、千葉県及早場米地帯では米の放射性物質調査（予備調査）が行われましたが、放射性セシウムと放射性ヨウ素は検出されませんでした。その発表を知り、ほっとしました。お米の放射能汚染が心配されている中で、政府はお米を投機の対象にするような「先物取引」を8月8日から試験上場を開始しました。安定供給をしなければならない主食のお米が投機の対象になり、投資家のマネーゲームになろうとしています。“マネーゲーム”といえばパチンコにもあい通じるものがあるのではないかと感じてしまいます。そのパチンコ業界を応援する“パチンコ議員”が政権交代した民主党の農水大臣として三代も続いているというのです。赤松広隆議員、山田正彦議員、鹿野道彦議員です。『なぜ韓国は、パチンコを全廃できたのか』（若宮健著・祥伝社親書）の本を読んで知りました。農水省は、公営ギャンブルの競馬などを管轄していることを知っていましたが、民主党政権になってからパチンコ業界と縁のある議員がなぜ農水大臣になってしまうのでしょうか不思議でなりません。ついですが、若松健氏によると、原発問題で注目されている海江田万里議員も“パチンコ議員”だそうです。（西村）

